

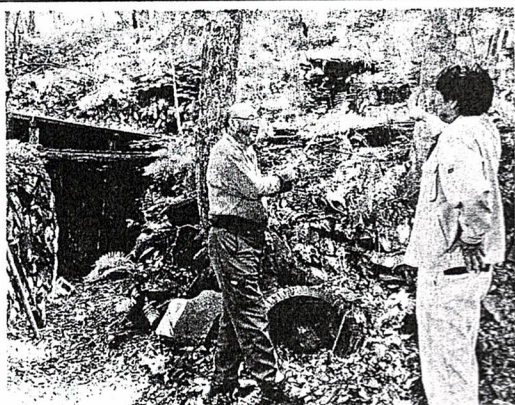
小諸の風穴

高まる注目

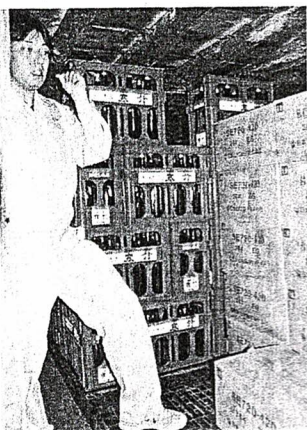
小諸市の氷区に残る天然の冷気を使った冷蔵庫「風穴」に、熱い視線が注がれている。かつて養蚕業に使われた風穴を新たな味づくりに生かそうと、市内のソバ生産者が玄ソバ、佐久市の酒造会社が日本酒を今年初めて貯蔵し、1日は約4カ月貯蔵したソバを搬出した。地元氷区や市民団体も自然遺産や産業遺産として着目、保存やまちおこしへの活用を模索している。

養蚕で活躍 氷区に1カ所残る

氷区の前田寛孝区長(64)などによると、風穴は明治〜大正時代は集落の南に多数あり、蚕の卵や農産物、近隣都市に売った天然氷の保存などに活躍。冷蔵庫の普及とともに使用が減って老朽化し、現在では土屋節さん(70)所有の1カ所だけになった。そうした中、2011年から近くの研修施設「安藤白福記念自然体験活動指導者養成センター」が風穴群をロングトレイル(長距離自然歩道)



玄ソバと日本酒を貯蔵している風穴(左)や、破損している風穴(中央奥)を前に、活用や再建の方法を話す大池さん(左)と戸塚さん



風穴内で貯蔵中の日本酒を確認する戸塚さん

■新たな味づくり 日本酒や玄ソバ貯蔵 ■まちおこし期待 再生へ地元に保存会

の見どころとして紹介。佐久地方の若手建築士と信州大経済学部(現経法学部)ゼミが14年度、小諸の街並みをテーマにした調査で風穴群を取り上げるなど、注目が集まるようになった。

市内のソバ生産者らでつくる市畑作振興推進協議会をば専門委員会と戸塚酒造(佐久市岩村田)は貯蔵施設としての性能に着目。同社の戸塚繁社長(41)は「夏も1〜2度の低温でじっくり熟成できる」と、唯一残る風穴に5月初めごろから日本酒約2千本を貯蔵。同専門委も玄ソバ約1000本を貯蔵し、この日搬出した大池久男委員長(66)小諸市松井は「風穴は湿度が高いためソバにストレスを与えない」と期待した。

氷区も昨年、区内の約30人が参加する風穴の保存会を設立。14年度の調査に関わった建築士の協力を得ながら、活用法や再生を探る。前田区長は「自然のすばらしさを伝える貴重な風穴が朽ちていくのは惜しいと、区内では昔から課題になっていた。皆さんの注目が、風穴を長く残すことにつながる」と話している。

真田の自治組織設立 準備会で研究者助言

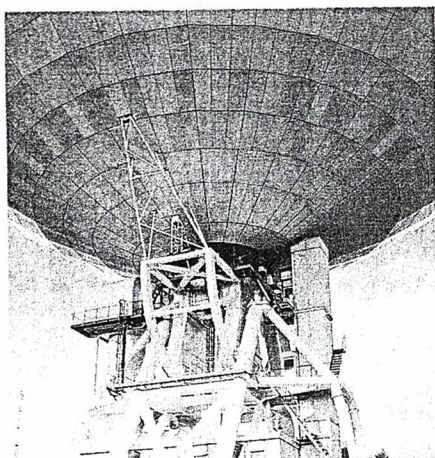
信大から招く

上田市真田地域の住民自治組織設立に向けた「真田まちづくり準備会」は8月30日夜、同市真田地域自治センターで4回目の会合を開いた。今回から、信州大地域総合戦略推進本部(松本市)研究員の新雄大さん(34)をアドバイザーに迎え、助言を受けた。



グループワークをする住民ら。助言する新さん(右から2人目)

野辺山宇宙電波観測所 望遠鏡架台を塗装 白い輝き再び



南牧村の国立天文台野辺山宇宙電波観測所で1日、45台電波望遠鏡のパラボラアンテナを支える架台の塗装作業がほぼ終わった。さび防止などで数年おきに位置を変えて塗っていたが、今回は約30年ぶりに観測に開所大級で上がった。

で抜き取り作業をした。佐藤雄輝さん(14)は「日本に昔からある在来種が少なくなつてしまつのは悲しい」と話していた。都文館中学校と都文館高校の生徒たちは6〜9月、この市有林は、ワタミ関係で食品廃棄物のリサイクル、森林再生事業に取り組む公益財団法人「Save Earth Foundation」(チー

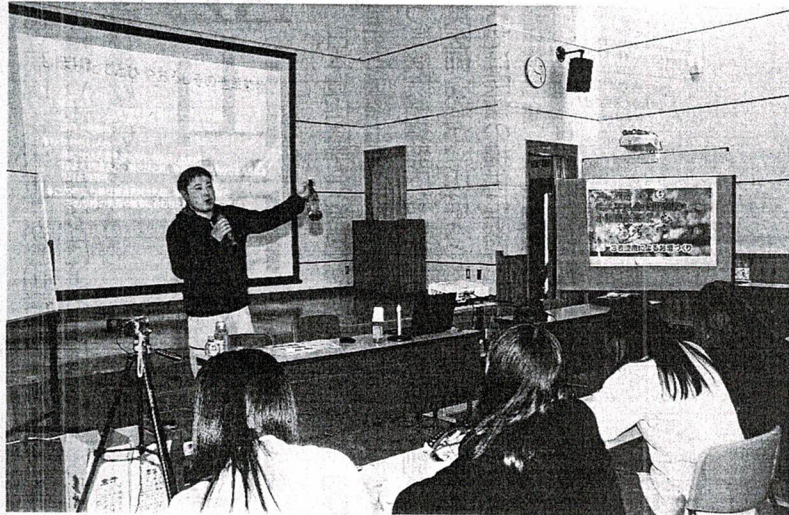
上田市庁舎耐震化の検討委

維持のため約4億3千万円の改修費がかかるこの結果をま

都内の中学生

少子高齢化による地域活の担い手減少を背景に、自

佐久平総合技術高×小諸商高×戸塚酒造



上野さん(奥)から酒について学ぶ生徒たち

酒造り学び発信を

佐久平総合技術高校浅間キャンパス(佐久市)と小諸商業高校(小諸市)の生徒が本年度、戸塚酒造(佐久市)の協力を得て、日本酒や焼酎の造り方や売り出し方を学ぶ合同授業を始めた。歴史ある酒造会社が多い佐久地方。地元の産業を知り、魅力を県内外にどう発信するかを考えてほしいと、両校と同社が企画した。生徒たちは1年かけて、酒造りの一部に関わり、瓶のラベルをデザインする。

原料栽培や売り方 合同授業で

小諸商の教員が昨年、天然の冷気が吹き出す小諸市の貯蔵庫「風穴」を見学した際、同社が内部で酒を貯蔵していると知ったのが授業につながった。

2、3年生約100人が日本酒担当と焼酎担当に分かれて学ぶ。5、6月に原料となるコメとサツマイモの栽培を浅間キャンパス内で始め、10月に戸塚酒造で焼酎を造る準備を手伝う。別の酒造会社社長や大学教授からは、佐久地域の酒やマーケティングに関する話を聞く予定という。

初回の授業では、戸塚酒造で酒造りを担当する上野健さん(34)が「酒造りはデリケート」とし、日本酒や焼酎の製造工程や種類といった基本を説明した。小諸商の春原未弥さん(17)は「これまでのお酒がどう造られるか知らなかった。理解を深めていきたい」と話していた。

縄文の生活

御代田町の浅間縄文縄文時代の人たちはどう出土品をヒントに考

「縄文人間」その原像

が並ぶ。専門家を招

9月1日まで。

七五三掛遺跡(小諸人骨約20点を初展示。する風習をしたとみられる。月見松遺跡

コンテスト銀賞の賞状

